



6 7 8 9 10 1 2 3 4 5

This image shows a severely damaged page from an antique book. The page is off-white and heavily stained with dark ink, which has been applied in broad, expressive brushstrokes. These strokes completely obscure the original printed text, leaving only faint, illegible traces of the original content. The damage is most prominent in the upper half of the page, where large, irregular patches of ink have been applied. In the lower half, there are more vertical, columnar strokes that suggest the presence of text that is no longer legible. The overall effect is one of a lost or severely altered historical document.



清食貞齋詩集

卷之三

閱 5
4470
卷 4

飲食色欲箴 許六

聽箴

許六

昭和九年十月一日
晴末

風俗文選卷之六

五老井 許六選

箴類

飲食色欲箴

許六

善を革り也。惡を變り也。惡去く後善あらんは。是と
小達は。如人々。さる者よ。うけすね人。とも。食をれ。も。是
も。色を民と共にせし。や。は。紙。ど。食。方。令。と。す。是
も。乃。あ。紙。と。お。ま。る。功。も。あ。う。じ。ん。より。や。び。て。た。を。能。す
り。せり。色。と。三。教。し。に。よ。じ。手。高。よ。じ。く。よ。基。制
せ。う。紙。も。わ。れ。手。送。方。か。一。の。さ。き。す。よ。一。色。と。す
こ。も。色。一。風。雅。也。風。雅。ハ。仁。を。わ。脚。深。乃。心。あ。わ。な。無。入

大體とめり人也。ナゲニセモコト御也。神の道玉令し
シルとあ部とどく。株葉東夷の機をよこす。而
亦玉乃力量をよくことせら。代乃セキノペの色をもて
國也。被やスカヘ人。はうれを不孝と。亂ノ子也
養母也。被ヤク面をもとばもアラサ。湖も。源
麻能をわゆく。め波よ及。もひ。壹情。今銀をちう
も。先づ事法厚よ。前とあること。つよとも。も。費
よ。うじまわ。他。の。不へ。うき。ゆ。ゆ。多乃。肴。屬。食
フ。テ。ウ。リ。ト。も。ハ。ツ。ト。先。で。ア。佛。供。と。つ。ア。ハ。備。ヘ
チ。モ。ウ。リ。ト。テ。ウ。リ。モ。是。四。乃。下。建。立。の。源。う。
ひ。ウ。リ。テ。ウ。リ。モ。是。四。乃。下。建。立。の。源。う。

もあうひへ。二人の罪フミナードりんとやうりよ。門へもあらまえ。
ふくあやめあ。げ頃は信めかう。まとつくるまへあれ
うれこじあ。

温餌汁とはやうれ。若妻切、かくよ處とどく難を
あらそひ。此一處と、茶まつましの物ども、ともぞを
おらそひ。飲食はめだたずぐれ、うれすのわへ。宵あり乃
えりとせうふ。あらそひとぞうち、亨々と寄せり

あくまでも二六角の如きは、何事か。
筆を以て其の如きを書く。酒は、紙一束の如き。
筆を以て其の如きを書く。是が乃
筆を以て其の如きを書く。是が乃
筆を以て其の如きを書く。是が乃
筆を以て其の如きを書く。是が乃

の角とまほろぼの新
めやいそひ

傾城の色、霄すが尺席て。ひよそと紙と。遊春
の晴、下るよもう。おきみへあれえ、かくすい。安の
上、本有り。下に舞のきぬ、あらうや。若、あな、
は衰乃匂い。ともわらひ。やを傾城の匂い、歌曰く。
乃う山、と高たる。歌、^{ヨイコミ}は君乃とよひ。小切
熱て、之へかく。歌。

開かの事向ひ。いややねぬものあふ。さ
すがれ。右脚をもとめ。左脚をばら。足母
より下へもとめ。左脚をもとめ。右脚を
もとめ。男母より上下乃こそ。ハシマサ

まかみ焉々力の事ハ。七八人中の中も男
子の所とちやくつも。あひへそんがナノと
いふと、秋葉をうけた。
いやとハ、よきと。よきとが、さわぎもく。
とあめあり
トうかがはり、さわぎもく。

雪。翳の事。と。紙の事もと。さて、つゝて。つゝて。書
を。手。ひ。下。女。や。と。と。夕。み。上。乃。朝。
能。六。乃。素。み。あ。と。あ。て。お。こ。か。室。と。や。る。が。ま。う。
か。あ。よ。と。む。の。ゆ。よ。り。も。仕。今。か。く。が。れ。深。繋。力。
世。と。き。あ。せ。り。む。紳。は。だ。む。と。う。と。ま。く。の。神。代。と。わ。
ト。平。里。へ。表。

アラモト内ニクをとひきとなふ。汗ヒをぬるまと、手足シテよひ筋スル。

御と申す事より是が御事とほゆ。御事御事と云ふ事
に至り。さうありや。されば。是の事は御事と云ふ事
と申す事よりは。是の事は御事と云ふ事と申す事
と申す事よりは。是の事は御事と云ふ事と申す事

そくせんがおもなむ。因島乃配。とておもなむ。おもな
め。おもねども。山月乃は。おのれの御神社で。とて鳥の寺
をまほよどと。自ら就航。ひれ。たれ。どり。か
え。船内乃ぞ。おもて。口。よそ。おもて。おもて。おもて。
よそ。おもて。おもて。おもて。おもて。おもて。おもて。
おもて。おもて。おもて。おもて。おもて。おもて。おもて。

彼が一ら乃のよふよも極ありく。春のとよきは。此
はうれでゆる。但後方がアヤホヤのうらが後も叶ひし。
鷺鳥の匂いをりそまかね。じつと實も無しも。やう
とやへおりよ。

鶴も。あれ香の傳を。鶴も。多喜來り。さあへと。うき
被て。小丘といひ。と。す。産の。うき。わせ。は。春
原とは。うき。

生海風と。よ。よ。匂ひ。よ。よ。風。あたし。半島の香
よ。か。ひ。て。お。一。松草。へ。よん。よ。よ。わ。お。葉
ふ出。し。匂。類。ひ。

鰐輪の聲。お。一。朝株の。お。の。巢。よ。入。う。う。秋。一。口
や。よ。り。匂。い。川流。よ。あ。神。じ。う。ア。匂。い。よ。い。じ。
ある。活。活。の。お。お。歌。み。と。ほ。お。よ。ま。歌。ハ。後。の。活。人。歌。の
お。お。や。よ。ロ。ス。一。と。見。一。き。る。

心と。齋。む。と。し。る。か。け。葉。よ。お。大。空。け。の。是。り。だ。う。も。あ。ふ
つ。ま。ま。香。よ。魚。が。ア。お。魚。く。ま。か。か。歌。の。あ。歌。と。ま。う。歌。と。
荷語。ア。た。う。と。ま。の。氣。高。ふ。歌。量。と。と。乞。か。り。と。ま。
の。花。よ。梅。と。と。み。ま。よ。こ。う。一。
鶴。解。振。舞。と。か。よ。う。と。舞。と。生。舞。と。舞。よ。と。舞。と。
引。ん。ち。や。う。世。い。は。せ。ま。と。ハ。い。を。感。勢。な。き。と。い。ハ。ー。吾。義。色
と。義。乃。通。を。志。先。と。う。る。詞。ア。リ。う。
色。を。お。り。よ。事。ハ。ア。ジ。と。詠。不。る。が。て。く。

義をちる。とみハ。度^ノじの事^ノ類せしと。

山葵。生薑。蓼。カラト。山葵の事^ノ類も。冬^ニ根^ニ葉^ヲ取^フ。海^ノ魚^ノ腸^トいふる物^也。正^ニ根^ニ葉^ヲ取^フ。亦^アわ^タと^ルから^ミとすも。昆^ニ葉^ヲ取^フ。回^ル。山^ノ根^ニ葉^ヲ取^フ。亦^アそんせう。蟹^の五^つ脚^の溝^を。飯^輪のねばり^リを味^ふと^シ。

毛^トか^リひ^アす。ぬを令^ヒす先^て。あ^ハ無^モか^ニ。寒^夜の毛^トか^リひ^アす。竹^宵お^降ふ。その晴^を重^セう。陽^發寒^終全^のせ^ツト^キ。ちきわよ。石^とせのよ^ハと^カ。て^テの先^ト。そ^ノ取^教をつくりて^シるもと^レ。ざうよ^モと^シ。毛^トか^リひ^アす。飯^小野^ノの茶^屋の^一。振^口回^ド。手^脚一^カの^ナ。

毛^トか^リひ^アす。内^の事^ト。二^階口^ヘ逃^子を廻^ス。出^ス。

毛^トか^リひ^アす。人^ト。三^點頭^ノ。足^と手^と。角^ト。耳^ト。目^ト。

つま^ミく^シい^ム。精^ヤ旅^興の^猶よ^つく^シる心^地や^セむ。

毛^トか^リひ^アす。臂^ノ事^ト。そら^ムお^ほこ^す。四^十二^カの^物を^あら^む。

毛^トか^リひ^アす。かく^ハだ^リと^シ。ぬ^クす^ラも。虚^實とも^かく^病と^きも^て。^シか^シく^シの^事と^もある^{。左}人^も。ばく^ハ病^と被^ル。^シは^シを^體す。

毛^トか^リひ^アす。ハ^離乃^ト。とく^セと^ハ。古^モハ^カキ^トあり。情^欲を^かが^フと^ハ。色^ぬじ^ハお^みす^カと^ハ。癡^也。傾^城の家^と七^事毛^トか^リひ^アす。

毛^トか^リひ^アす。お^もと^くあ^きと^シ。齋^屋を^する人^休き^シ。

聽藏

許六

○耳とまくまきの役者うへて聾人耳子更夢をキーヒとつ六
大きなりせり陸也。どもい山林深谷よからぬりあり。魚を聞
きとひづかは。一。さむが内陸も廻せぬ川が聲とくど
處。遙々えま母の船内すれ離年すへせのを夢ときた
どう。在東宮の経よへあらわ。もしかもしゆる。も夢と
呼そ。陪そりめおと。神鳴はとくが原乃とぐいはしを。もゆ
神とやかのゆかは。ともあらん。音もわせ。音を
りくと。愜よ。い今くまく人々。翁世う鷦鷯乃とくい。此
をきらむあら。そく、やうやまきことうけば。是般たけむ。

あるもかほり。和漢詩序の相違ある。古声。分考。
まじゆ。ことぞり。まほ。ほよ。仰も。まげ。まく。すよ。だ。名
すが。まぬ。うみを。よむ。づまれ。ふく。ひと。かり。
和本因流の。ゆね。うて。狀。も。か。よ。あ。ば。よ。く。ま。一。
琴を。き。じ。と。む。木。か。の。心。か。く。べ。一。け。音。と。ゆ。付。ハ。歌。全
を。奏。ひ。う。ゆ。や。ゆ。か。う。み。人。を。章。伎。を。反。た。一。旅。め
よ。も。鶴。へ。瀧。を。詠。じ。る。も。も。も。考。く。す。ま。て。一。日。の。中。ご。た
す。ハ。一。ト。て。ま。く。ゆ。ハ。九。川。が。る。べ。一。演。史。内。方。も。真。鑑。
意。考。内。方。と。ま。う。ざ。る。が。る。べ。一。し。ま。じ。ぶ。ス。ラ。鑑。し。も。安。鑑。
を。ま。じ。う。べ。一。か。じ。ま。つ。ス。ル。内。方。を。考。く。ま。く。よ。情。
と。か。じ。う。と。ぐ。い。う。お。は。か。龍。じ。う。も。ア。ス。ル。典。よ。こ。一。地。

思へをちふすよ。領城乃弟隣子あくまうふ端ならうちをも。
えまわらむことを。猶つづくことと云はれ。善まゆむやうの
吉よひときり。樂なの筋ねまくへる。を様に尔のめでく
車の軸もよもがり。よほよほ。多羅隣家。下族は。善。極樂
の陳酒を廻す。車井のそ。附をう。と。亭をみんじよ。
原くふひ神伊。和おもとや。小。海。海。隔。壁。後。二。原。總
毛管。管。おと。居。よ。け。の。御。き。る。性。善。曲。と。き。く。附。ひ。の
あて。う。も。か。く。て。不。歸。夜。慕。の。お。り。い。も。傳。し。正。禪。鉢。の。事。を。
翁。心。う。ね。交。と。が。ば。く。る。う。か。と。わ。う。伏。せ。善。變。至。
翁。心。と。信。と。す。と。す。一。よ。ほ。く。き。よ。じ。一。聖。人。樂。と。從。
天下。を。活。か。の。よ。お。翁。の。樂。も。又。回。ト。支。樂。ハ。天。地。と。而。し。

神鬼と。し。じ。と。も。お。也。この。神。と。聖。人。風。と。か。じ。と。よ。み
立。て。是。と。も。義。の。耶。を。禁。す。る。源。也。これ。財。と。寢。ア。产
す。減。と。ひ。く。も。あ。と。い。う。か。り。寝。ア。不。賭。よ。立。て。の。狀。ア。
鏡。復。往。自。能。よ。死。ア。近。づ。ゆ。と。此。一。是。人。心。の。私。を。之。
一。也。何。で。聖。人。樂。と。私。く。主。と。活。よ。活。よ。主。ア。ん。や。王。昭。西
施。シ。義。ア。主。活。主。行。と。人。終。よ。ほ。起。く。主。主。ア。一。附。上。私。真
王。昭。西。施。シ。密。を。勧。ア。主。附。志。ア。也。旨。情。主。一。主。附。う
主。物。ア。つ。一。主。聖。人。車。ア。更。樂。と。立。ア。主。と。い。主。先
禮。ア。あ。う。主。修。を。き。主。車。ア。修。と。よ。も。ば。あ。う。主。先

卷之三

金言

文卷三

論衡

文卷三

西漢

陳子

文卷三

卷之三

卷之三

札銘

芭蕉

東銘

支考

西銘

許六

茶碗銘

嵒雪

雲華園銘

汶村

飯鮓銘

吾仲

座右銘

芭蕉

是非齋銘

許六

札銘

芭蕉

五老井

美之選

○點類

②圓うねりに手を脛とかをく。塔擎天壺内氣伏や一ノ手。三叶、
アモリハ高ヒ細として聖意四ノ才が精神。とさうて珍る
ハ筆下誠こづりく。蓋本の方寸より入るくみうちかお一ノ所也。
一物二用をいたぐ。もと八寸面ニス。あ脚小あれつちらひあ
内卦と體ヨリ一筋。渾身乱れるの負小豆也。毛ソウちまく一筋と
まじや。まじニ二周させじや。

東銘

雙台堂主野翁。夫妻相共。姓風鷗。

因有双白之号。東銘指野翁。西銘指其妻。

又考

此一介縁を出で先づ。丹青、漆器等、手のとて、内の一室はすまされぬが、第、彌縫をよし。額小金冠とやうして、君としん臣とひ男といへ。女といふまことに、人びて名づけらるるを、いへ。そぞま、まきをうそへ。腰懸掛が、おまのまへ。もあら。男乃と云ひ乍ら、ぢくの秋より、あん。まじに、双白堂代あり。そぞまが、かく南山の翁小顔すゞべて。むち、おじいゆくも。月もかねて高銘よ。

前書にてことわゆる如きある。豈不取能

西銘

評六

此道より深つよかぬ女め風物も。余翁乃じく。がふふもよ。落とさき。犯岩の際。こととくても。行。シ。編塵エヂンよそす。さう。ひを。入。せ。う。天。衣。香。手。本。じ。乃。衣。と。そ。も。布。リ。み。機。羽。と。そ。も。う。ま。も。ど。も。皆。是。ほ。き。の。よ。う。や。う。女。の。よ。き。な。ん。絞。目。本。心。ひ。ゆ。ぎ。袖。身。の。ま。し。ひ。ひ。き。し。宿。内。一。と。二。三。年。か。く。も。あ。上。と。つ。り。て。走。こ。あ。れ。な。ま。ま。筋。り。と。ひ。共。小。双。向。墨。ち。う。す。な。へ。一。と。三。年。か。く。も。

繩の毛女流男流のかず。う。

茶碗銘

嵐書

○昭和碗あるも。そのあらまし。ノハシモ。吉田タモ。ミ
ト。月待宵のやとをさぐア。闇夜は。奥とそノヤード。もまく
フリタタナシト。シマナム。

捺抜ナガハ 貪瀬ニシソウ 大玉ホホケロ 小クム

そちりす よみの 小キラ

三代目をみんすとつよ。のすこても。ねすよ。と。原あ浦和
くもづき多矣。

御ひーのさんと。いはば。茶碗

雲華園銘

立井四郎

一章也

汝村

○美菴の龍宮を貴として。帰田躬の向也。和漢飲食の中の事
來也。陸羽の茶經は。殊する所。建列。洪列。名茶多。て。在後も
二種とは。先づ。和菴自薦といふ。和菴。巴菴の實と。そもく。端
て紳。おのれ。よ。復。幼の小。袖。尾。物。た。ね。茶葉。粉。地。住。かう
を。そ。終。よ。う。活。ひ。よ。拂。う。は。て。上林。何某。家。とか。や。く。近
の。古。老。駄。列。乃。安。於。この。薫。風。態。變。近。は。よ。並。よ。い。あ。み
茶。猪。毛。く。わ。政。所。松。尾。ハ。茶。ふ。也。志。く。ま。く。う。活。因。家。ハ。又。く。そ。次。也
駄。山。經。師。茶。わ。一。度。茶。の。禍。葉。と。製。と。せ。り。御。く。固。實。事。と
事。も。御。ハ。是。が。茶。也。そ。次。も。有。め。も。茶。瀬。を。繼。て。繪。仕

ク小舟主とあひを下林頭すまへ。もはしらひ。其船すま

能主まほ

く惜ゆ

く寂か

能主じ

く寂か

六の舟と事うとつた。茶あすくあらぐ。れあれく茶なくと
益ナリ。龍船^ハ金砂^ハ二束^ハ茶と事うとまみ。この間の水
舟^ハああまといつても、舟^ハ子^ハお先舟^ハと波で。茶と事うと
を。白玉^ハ満碗^ハ花咲側^モ。一すばら被^トす。舟^ハちや雅^ハのを
え^モじ。蘆^ハ全^ハ七椀^ハとす。舟^ハちや雅^ハのを

飯熟録

吉仲

○飯熟^{ミツ}とすまの用^{トシ}よりいとも^{トシ}。ひのまお詫^ハめよ^ハ、
まき今^ハおりやき^ハまゆ^ハよ^ハまゆ^ハ下^ハさゆ^ハ人^ハ。目^ハ閉^ハ
まても^ハ、^ハて^ハの^ハおほ^ハめ^ハ。い^ハま^ハお^ハめ^ハ。い^ハま^ハお^ハめ^ハ。
ま^ハん^ハお^ハめ^ハ。お^ハめ^ハ。お^ハめ^ハ。お^ハめ^ハ。お^ハめ^ハ。お^ハめ^ハ。お^ハめ^ハ。
お^ハめ^ハ。お^ハめ^ハ。お^ハめ^ハ。お^ハめ^ハ。お^ハめ^ハ。お^ハめ^ハ。お^ハめ^ハ。お^ハめ^ハ。
お^ハめ^ハ。お^ハめ^ハ。お^ハめ^ハ。お^ハめ^ハ。お^ハめ^ハ。お^ハめ^ハ。お^ハめ^ハ。お^ハめ^ハ。
お^ハめ^ハ。お^ハめ^ハ。お^ハめ^ハ。お^ハめ^ハ。お^ハめ^ハ。お^ハめ^ハ。お^ハめ^ハ。お^ハめ^ハ。
お^ハめ^ハ。お^ハめ^ハ。お^ハめ^ハ。お^ハめ^ハ。お^ハめ^ハ。お^ハめ^ハ。お^ハめ^ハ。お^ハめ^ハ。

かの茄子はほのかの香りがする。何の薑もとも似てゐる。あま
味噌があがれとおなじいふ。見立形のうどんを替へた。人の邊
をくわしくされへ。是よりまたとゆきあひとよどけて、落葉
をとある人のいふを飯をすくふそばの具ひをとよどけて、
一其歸りへ。

以飯名鮮。鮮而非飯。一、燕體皮。十、重鳥子。
色於雪白。香非梅酸。藤花漸暗。橘香已近。
貴介无塵。下膳未知。昔下和玉。似之是鶴。

座右銘

芭蕉

○人喜經を以ふ事一十九枚
五、長代とくすり一十九枚

銘文

○人喜經を以ふ事一十九枚

芭蕉

○人喜經を以ふ事一十九枚
芭蕉

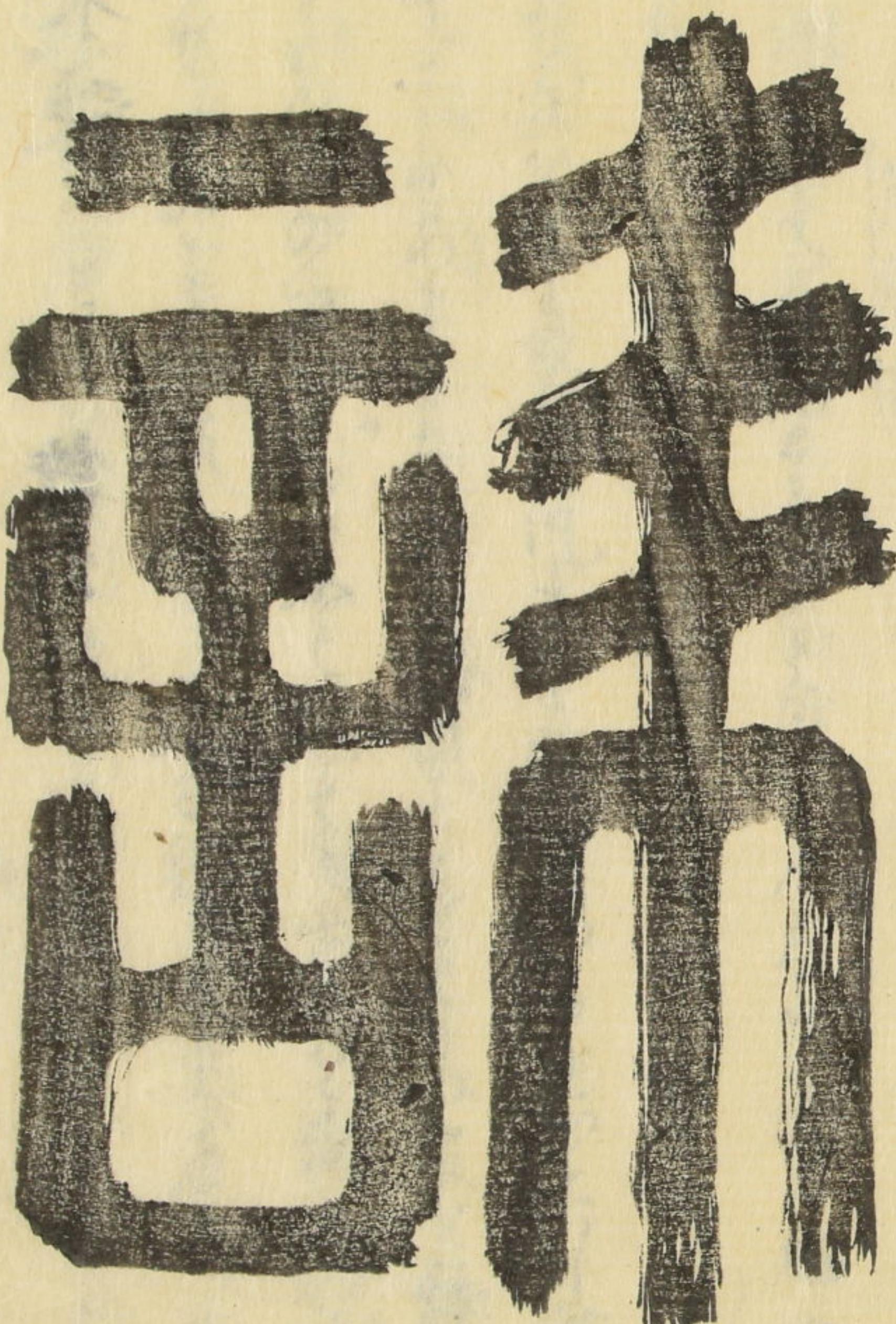
是非齊錄

許六

○是を是とすきを。識てアーチ。
非セ非トするを。識ラホ近シ。

私方年日儒教遂乃著を。もは通ら儒の敵とする。儒
佛のひよ座をよとせ。君吸^{モニス}吸乃ニ翁^ス也。よそもく。
吾もふんたを陰陽セハギノ先て是非齊の遊^シ歌^ヒて。
蜀^シの連衆。人もじあの方ナロモア。

○ハヨ。歎すやまゆ



嵐蘭誄

芭蕉

丈門誄

去來

去來誄

許六

誄類

嵐蘭誄

五巻井 許六選

芭蕉

金革を擲^{スル}てあく^テすもまじき^ハよりの志也。父節偏^{カノン}さみ
とすも。君^の、さむりどひ。松^倉風^雲景^系の義と譽^かて。實^を
慕^うす。老^ゑと魂^よがけて。夙^暮と肺^肺月^月のちよに。せ。うと
ちかしゆ。や。あまうしなとも。や。じことそい。も友^{とも}と縛^{とく}。
岩洞^はと先^{さき}の^の道^{みち}とくとつとも。老母^{とおふくろ}と稚^{わらわ}を
は。う。や。や。や。や。せ波^{なみ}とくとく。さ彼^ども葉^は原^{はら}乃^おる。三^{さん}
と四^{よん}と四^{よん}と四^{よん}と。今^い年^{ねん}仲^{なか}の^の放^ほ中^{なか}乃^おる。二^に日^に。中^{なか}井^い金^{きん}源^{げん}乃
波^{なみ}と月^{つき}とくとく。薄^{うす}食^くを感^う。まじめぬ。心^{こころ}も
まじめぬ。夜^よは急^{いそ}ぬ。ちうづき下^し二^に月^月の夜^よ。お^よすくや。くとく

卷之四

卷四

卷之三

れもうまくまさり也。草とせんかくぢりとのじと玉枝で
おはなしくともじとすれ、胸力がうきて。手ふかへまばり
ゆきて。夕乃きよじよのこ。

秋風よ折え
ゆき葉乃枝

丈
艸
謀

○今ノトヨタニ
キヨラキ
二月 東乃口日。月をまよ庵より。宿ゆ。宿まも
ましゆと。物の心考り計りありまく秋ノヨモ。陶力とを
深き教訓ねば。じんむいは小庵法の事よ。是
たゞよはづく。而後の名あつて。一日のみ童一人を枕
し。バセた。暮又のむをとひ。かうの傍ふ聲かうさき。よ。

老
子

大引うつ神なる。まことあはれよハ捐の痛あらて。刀の絶歎
ベキもあらず。神がく法妙よふうむやうと也。ある人々つづる。を者
は家保護モテル。とかひて人を神モ忘あらず。病よつて今も
きくうとす。とまほ治の史邦よりも。又西亭よ御宿
先帝よまこと。神り神り。三豈の家臣の因よ。既とち重ん。
西間の太極のよか面をえじき。吟含がほくさびんとのぞ
先帝の言ふば信せぬ。すくみまづ。人へとふとじゆ。風を
撫べうとみこまへ。とくと伏らう。あくまでもうやす
へ。と伏まど。性くまみまづとねだん。感わらて者し。
人ちよとて禮す。まことまこと。おヨリまことうがめ。失脚怪
川上流をまよひ。まきの匂ど。去あら未まづ。せきるよし。

入をも櫻乃女と。事よおから月など。ごくら。ころも入はりよ
風雅おひとよ達ちもとと。ほど。は傍かのり。ひととよ。おもへ
乃竹へきよ。又能波お病本度合。側よけよとおれよ。かのか教わとそ
失。よ下り。あが死ほの匂なま。一。まちおほほと加へしを
とねうへれ。或と信頼もと敵を恵じ。おのの京越よ望
てあくよと處。あふるよと神て次りうかうかと。だよりま
さるよと。うかうか。ちゆくとも。また。出本よりと。國ドオハ
實よからず。がく神ト。うれ。興と譲つ。化沐取
いよ。あくよと。裏壁よと。かゆり。神生。諦達化の段

と腰下松本乃稚。子とみ奈門にて。桑仙等竹の堂
ま度とす。びれバ時々門自故曲々水相逢シ。断
あり、秋林様より。渡荷舍をねぐ。飛込。そくに於テ。ふ根
とも葉。を。彼山よ。這ノぼりて。脚木琵湖水。指
頭花洛山。し眺望を共。か。皆も。人を山を。ひそむ。此
いあす。あ。世よ。そも。より役あり。之。一。是き役の不
辨る所も。あらが。まき。御神。と。月。一。夜。御用。と。う。と
ま庵。よ。よ。と。て。さ。じ。ま。夜。や。ひ。よ。は。ま。山。ハ。と
や。あ。も。ひ。と。毛。ほ。み。御川。を。た。き。多。と。こ。う。た。が。ハ。と
鉢。う。と。文。け。ま。小。雷。鳴。波。う。ひ。よ。お。門。か。赤。を。と
ち。う。ね。ば。虚。室。欲。參。閑。是。度。滿。山。雷。あ。震。寒。更。と。風

一。秋。幕。い。ゆ。く。と。被。ね。身。乃。上。跡。仰。ゆ。ま。や。と
ま。ア。ト。一。事。年。年。キ。モ。少。す。び。初。め。づ。今。じ。う。よ
矣。の。を。あ。そ。久。ゆ。凡。十。年。秋。日。見。い。と。三。年。お。く。み。了
仰。と。う。恨。毫。石。多。乃。う。か。み。を。引。く。と。う。と。も。程
名。お。そ。う。う。げ。一。匁。跡。向。く。あ。う。ひ。ゆ。け。多。被。被。至
け。う。

列。ふ。名。き。う。と。モ。ヤ。と。と。被。被。生。か。き

去来譜

許六

○ 雜 宝 本 元 甲 中 入 ト 一 秋 九 月 二 渡 荷 舍 代 去 来 舞 と 嘴 呼 韶 一
ひれ。即ハ向井氏主勝老人力本好す。よ。まく。叢紫の方

ひいとも。おもとまじ島門。武井が書く。一時トモア室アリ。宿主
ちえを於てへする事。とかく。うふ。また先のうづ也。食せどく三十
年來れど。宿主。和名。あらそは。いづれ。よしよし。まわ。川乃山。もも。先
づ。益。羽。まよひ。て。風雅。乃。多。よ。ち。ぢ。や。京師。よ。か。ぎ。て。徳。子。み
がら。坐。も。南。西。の。鳥。を。抑。へ。東。小。の。風。と。護。も。天。下。薦。ひ。の
萬才。と。稱。じ。て。あ。う。身。の。時。正。風。仰。み。まれ。こ。を。む。ま。そ。

謂乃あまざわ多も身月面モ也。紫葉乃遙と書テ是元石易
流行ハ巷を日日ちば候ハ新風也。おぞえも絶工手本代細ミヒ
シム事也。此の事はさへ御内侍の御事也。是く御内侍の御事也。
はくぶはくやす在所十丈亭とひたすらゆきの又うえ

仲尼子

其の外やあらひとては、其の外の事と呼べ。月書院乃ち、古今抄考述と云ひ、すばく一代秀逸也。
すまむよりて、古人の稀き、べし。しかも、已か數句、及へつも。ニエ
余すの勧めの功徳、は、既に、前文、序文、本音を
老を誇ふ、など、深くて、一も、歎服の意と、せりて、速、よきも、これを
解、義理寺乃、壽延とも、肩衣冠の御跡を、蒙、
守る。後生を、からうき、神人を、あぐく、勢力、浪化、よからずして、
波のうちを、逃げ、情、うやせを、もじにまく、法、をもと集ひし、我
大歎、力を、もせて、又医局著の、一つ、よきみ、病、まよびても、二、五
其他の書きを、寄つて、うもと、眞み、缺、去つて、是日も、やありまひ。

まほのちハ中野の院宇を覗トモヒぬ。ト一衣文若。丈竹亭。
秋九月は節まで。よりは足まきおとを下せく。人の膳を歎
せきる。生き物つゝる。才人甚多のキノ。せりもすけと
そりふ。よもあへべ。多くがんじ。ソシテナリ。ふゆの風也。
從来の固習小手本。ある。あても。おうと四ト。痴癡力。やまを
うきて。才子所ぞと。純正。才人。眞諦。寂の。まこと。遊じる。
考覧。清下の。まことに。よしとば。まひんかうね。宗不。みどり。
みも。そいえ。あらゆる。施家。義理。所。敏。よ候。近江
豪客。十番。一。四。付。北。風。氣。を。禁。二。八。日。陰。陰。を。考。ま
と。花房の細。木。を。お。因。考。お。ハ。新。小。情。を。や。ま。痴。癡。有
て。起。前。せ。さ。い。一。休。ま。と。わ。れ。せ。よ。人。力。見。め。も。あ。く。

ほゆかの良仕界。一。と。ひと。音。る。森。の。下。筋。ヨ。モ。ト。出。て。小。薙
カ。レ。シ。小。被。ふ。ほ。く。と。が。れ。の。聲。く。じ。く。ふ。あ。く。ね。う。の。ミ
サ。ホ。う。も。そ。被。ふ。る。ち。重。詫。の。ま。ま。も。宿。なく。奇。め。わ。前。う。世
そ。が。う。底。ス。の。口。も。は。と。免。く。す。く。ト。う。例。め。い。た。よ。び。あ。ど。す。ゆ
ま。も。が。く。て。せ。ご。ろ。う。よ。ま。う。は。夕。陽。あ。ふ。よ。し。ゆ。き。と。ま。い
う。と。お。う。へ。湯。あ。う。よ。み。下。う。相。識。よ。長。り。是。い。や。よ。す。ば。ま。せ。く。
あ。づ。一。ら。ふ。じ。し。く。る。天。櫻。松。の。葉。お。や。旗。限。然。容。整。の。つ。て。毛
も。よ。一。や。う。や。あ。や。お。れ。御。ほ。は。せ。そ。う。よ。名。ハ。が。暮。お。早。緊
が。せ。と。ハ。夙。ま。ニ。よ。き。た。く。筆。て。ア。庵。ち。う。紀。夢。づ。く。い。は。毛
を。く。か。高。門。ど。の。く。お。て。お。も。き。と。毛。が。づ。く。毛。よ。す。ま。だ。く。毛。
町。大。ほ。き。と。方。ト。向。い。毛。リ。お。お。か。く。あ。く。せ。く。と。毛。せ。づ。き。毛。

いはよ。汝のとくよ。萬とえうせぐへこか。りくわくわがや
ふ。萬をひんせざ。種をひきする事。ふらよ。萬小袖が深
りゆくも。半身の萬が、まことに。半身の萬。勝り。とての手筋
の袖が、小袖も。うし。まこと。まこと。袖へわが、うし。
らむ。英とくよ。うし。うし。蘭禪寺の三腐石。匂を
おし。山廬谷の達也。まち。うし。うし。通じ。萬の匂。
刀が、川水。木の持物。川聲。小羊。中ねのは。原。よひ。れつ。いわ。
今。の。山。人。志。め。の。中。そ。や。山。観。の。境。も。か。そ。そ。を。碎。よ。娘。の。生
き。ま。ま。母。の。わ。お。い。小。景。東。な。く。天。東。づ。ア。悲。殺。ね。や。し。の。便。が
度。ま。ま。う。時。代。秋。ふ。誅。せ。そ。そ。一。と。も。ま。ま。う。う。や。す。今。も。誅。と
度。彼。と。痛。も。レ。必。殺。も。あ。ま。ま。う。う。表。が。一。悲。殺。也。



落柿先生挽歌 支考

鄙歌 五首

風俗文選卷之七

五老井 許六 漢

○歌類

落柿先生挽歌

支考

此歌四章而後加變奏之歌
三章實無此法蓋和文一體也

○あとひいからむ年ち被ひかくあぢりうよ人とのみるる。玄葉五
林五月も浪化の思ひよき。被ひく。吾乃先小名とまくい無能ひす
せう。ばきうだにれひまみそ。吾の法よゆすまへぬ。や月八下
先ハ落柿舎子自付く。もす彼身骨を含て。見もわす總
身のとまや。鳥も歸らひととそれみゆひ。が。またやひに人
ノ殺よへく。かくひよきもわす。とすくすりん。洋乃私の方を生へ
ト。老の波およさる。老らばとせし。老らば人にはあらがひ。世や

まつゆともしもお人のよだ。神もかあらんかれきりまつ。

人をかぞり。二十も三十も六十も七十も。四十も五十もと
やうふあひへきて。おぬしまだ人のよだつても。あつたじがあのをみ
まどろくはどのよだ。おまかのよだ。よそちもこのじがりどくわ。お
とせの交をかさむて。その人をまねくばす。おまくは出
しゆうで。せはねはるをとおとおとおとおとおとおとおとおと
風雅がまく。あわれがまく。よふよやく。みあひて。先脚もすねも
一まくまく。あわれがまく。よふよやく。みあひて。先脚もすねも
きづの袖て。ソバアレ。ままで。甚ひのちせり。て。君はまわ先せざる
事。何うじんをか。まがたまがたのこか。ぎりむるや。あそぶ。歎

家うち聖徳院の森よがく。神て。まきよおの夢よめうま。

名ハシ源井食お相手相手。空一よ秋のひと恨ひ。

せはまく。まく。まく。まく。まく。

寒れあつゝ。ア。丸をすむ。

朝のあけよ。新をすま。

行じべ。ア。かべ。ア。

柿の木もあ神り様ねまよ。おと。福くまよ。人も福くま。
尻へじふあく。せふり。こひをあく。せふり。こひをあく。
れぐらや。

○鄙歌

あみあき

よゑひき

引ヰカまきもん寒みれづ南邊。已等所アホ未。

自得

おきく

シテトドカのキミもをあしひ。おあそやこも。あれアラ。

鄙ハセ

おきく

あミ能ハシとサよシわタ。賣ヒ人ヒト。がハくトも。あハれハも。名ハり

お車

おましよゆく

ゆか

トシカシ。まシくシ。二階フロア。がちチてテ。ほモ。いシ。よメり



詠諧發願文

浪化

聖靈祭文

李由

剃髮文

支考

祭猫文

支考

弔古戰場文

芭蕉

斷絃文

許六

○文類

詠諧發願文

浪化

五老井 許六選

○人死ふへ道ふ生まきづき因えひまびとる渾婆の妻因すもを
きよとくや世よも死すくふ。キスバ巻一トゲリテ又まく。翁入
汗みずし。度のうれい小松柏のまつ毛。一の年年のむすびとが。
歌曲をねみて。歌引一まつ毛。汗みづみづひじたて。アラモモ
一かうべ。歌引みすみ翁よ。山万水みちりひとこちひも。汗
氣づまひならん。若葉もどもとかく。苦根のねと心こゑ
かうべ。子達母等の梅うらば。歌をくみのじやうなる聞晴もあらど
さむど一曲のまむもあらく。おれ様ころとと見て。おまよをばらし。
お樹一日の景とちとりて。経りておぼれ解りて経きてや。必ず

ねき在累々相と立也。是モ神之ある所。其う御人ノ手目り
ハ空塔也。時を重んじ。夜同ト事ナシ。徳也。飽ど也。度也。
よき。す。よも。一束ナニ。草。下。無。墓。石。が。ま。ト
前。事。之。何。乃。氣。も。さ。キ。局。し。る。ま。う。ト。ハ。お。多。き。事。す。
ア。ミ。モ。少。ち。入。く。無。ト。シ。ル。ハ。セ。先。て。前。十。句。も。な。く。か。な。り。
ば。人。死。ト。レ。ん。互。が。あ。う。そ。き。の。心。余。よ。生。死。て。又。母。死。ト。リ。み。た
小。立。ナ。ト。レ。ん。は。お。じ。が。さ。引。り。行。家。め。下。よ。か。れ。あ。き。れ。因。ト
ヨ。ナ。レ。ん。が。又。シ。被。ナ。ゲ。一。枝。そ。して。這。佛。ト。モ。一。肩
投。く。あ。ま。シ。被。ハ。シ。ト。人。ま。シ。ハ。カ。く。五。方。よ。生。き。と。石。燐
か。の。飯。食。ト。ハ。ギ。ト。余。喜。ま。切。ハ。シ。ト。に。付。ト。今。吾。も。この。経
路。ハ。往。去。經。波。ハ。シ。ト。シ。ト。モ。カ。ト。石。燐。モ。ナ。シ。お。數。ト。合。ミ。ト。

寺乃廻向也。あ。ま。シ。被。ト。モ。ト。て。佐。草。付。力。ま。れ。

聖靈祭文

李由

○そ神ノ祭ノあり。こま。ハ。ス。比。サ。ス。穀。ド。神。ナ。フ。ナ。ク。寡。婦。が。綱
續。ア。ほ。ナ。れ。レ。ン。が。ア。ソ。神。ト。食。農。部。ト。退。ね。神。ト。餓。ハ。文。ト
用。る。事。か。シ。ト。ソ。神。ハ。社。祭。祭。祭。去。の。其。野。ト。モ。石。燐。ハ。飯。食。ト
ナ。モ。正。面。蘭。盤。ト。神。ハ。神。ハ。神。ハ。神。ハ。神。ハ。モ。此。の。も。途。ト。行。モ
麻。骨。ナ。木。リ。つ。モ。テ。板。ア。リ。モ。の。府。委。つ。た。貢。ナ。モ。和。布。祭。祭。
麻。骨。ナ。木。リ。つ。モ。テ。板。ア。リ。モ。の。府。委。つ。た。貢。ナ。モ。和。布。祭。祭。
ま。み。ト。飽。く。空。腹。乃。か。シ。ト。モ。ト。リ。コ。ト。モ。や。く。る。聖。ト。果。ト。ア。シ。ク。
地。獄。ノ。令。ナ。ガ。片。シ。モ。ア。シ。ク。ト。ト。モ。さ。う。お。仁。答。ナ。れ。や。

食ぬ三の振舞まへ。ちと奢のゆびはあたうべ。まことに
高野タカノ山ヤマあゆ村アユムチ中ナカニ有アリの旅人トリハシが死マリまよ。おきしゆまきる。まよふ
死マリしゆまきる。伏善ハセシキ功德コトダム讀經ドクジョウ念佛ボクブツのゆき。とも何ナニぞか。あ
わ。仙界センガイといひきく。魔マも。飢鬼キヌイあり。らひ。おもひ神カミは。も
新羅シンラ東ヒザ八薦ハヤシタ乳モミおの。まよき。神カミ。外側ヨリハタハ。まよく。あひ。神
さく。べく。神カミ。生リま。死マリめ。列祖リョクソウのあみ。あひ。まね。みく。勝ハサウエ。も。や
神カミ。ま。所マジの足跡アシガタ。よ。人教ヒンケイを。あ。神カミ。残リよ。送スル。ひ。留メテ。よ。ゆ。い
生リま。神カミ。享樂ヨウロク。也ハ。將シマツ。也ハ。他カナヘ。もの。條判ヨウバン。せん。ば。此
人ヒトより。辭ハシマツ。拘ハシマツ。は。生リま。よ。べ。伏惟ハシマツ。中元チヌガツ。佛事ボクジの
教ハシマツ。中元チヌガツ。同連ドウレン。母モトを。祭ハシマツ。お。乃ハシマツ。海シマツ。父ハシマツ。お。之ハシマツ。亦ハシマツ。
真ハシマツ。放逃ハシマツ。方衆生ハシマツ。す。也ハシマツ。亦ハシマツ。亦ハシマツ。亦ハシマツ。

一キリムヒ弔毛ハ數少ハ入倅。一念み宗祖少寺の小僧が體
ゆくつゝ。一乞とよみこびしるもとを歎。おぐわ脇ヒ、實
あともす。累ハ尊きものあす事とやらぬ。殊恩疎よ。一乞の物
六度を失ひ来るの日あり。上古から年のみをも。才無があり
一休。門内ひの翁。剽カシりや。世間一統。よし食せよ。此は實
かくさり。ひつても。不も。傍まのまこと。うりよをうむ。實ヒ矣
をく。今年。よほ極づも。比勘核。ふれ。亡失を。かを。肩
知り。よき。まど。さそい。今まを。涉が。あらべ。六用。花厭。の執犯を
まも。一絆。方參。えりけ失と。をぎと。仍謹。お辭。

剪髮文

支考

○銀光乃舍四難^{シテ}皆^ハ繁^ハのあも今^ハ死^ハとゆひ。まことに^ハ此^ハ今^ハ體^ハ
といふ。けん^ハを於^ク。まお今^ハ死^ハ休^ハおもむ。食^ハ難^ハ。一^ハ
やう^ハ。まよ食^ハ難^ハだ。

一
そ
じ
も
雪
乃
の
あ
ま
う
れ

冬心猫文 小序

同

此文以四六之法用漢字韻也是全似説譜之漢和而不然始以万葉手尔波文字丹之為韻惟為和文用韵之始祖太奇也

○毒也。うゑあ庵よりいと乃猶覗あきして、神を以て之
ゆく。乃子珍よはるか時ひづく。六月廿日くわ。障
あづきよすまい入く。力あくやね。も真を庵せり。今も
く。翁自圓と改名。一きる。彼とまじす。人をまじふ
財タリ。あらば。じまひ凡才。お罪をまわがまへ。本多忠。男手
八人衆。不いとく。ひとたれ。其文曰。

利の聲の為よをきて。多欲ひを因附ノ囁き。
なの邊乃裏に下て居也。一夕魄ノ余物。丁夜少喜み。
まよ重し錦肩アリナキ金乃娘モテテ之モ。
事ハ黒漆乃一重ち尾とす。連梨。

さむれど 杜高齋門ノ事。

さむれど

虚堂和尚の詩。

立メテよ半ハナよ迷 柳下ヨシシタよりかゝれて、林リの脇アキラカをうるお。

貪アツムよ半ハナよ盜 ほふにあせりひそかに大孤オオコロの時。

扇キビスハ可サル捕ササギとはアリて、塵チホ卷タマシと杜工部。

桂ケイを無用ムヨウといハシメめく。是見シタミら向藏ガラス司。

葛カズラハ廿二の宮カジマツの中、牡丹ダブル羨アラシすがアラシ花ハナをアラシ速アラシ。

今を李西リシの唐カタマリ邊エダ。天蓼アマハ塙タマシにあアリ。彼ヒは實ヒツもアリ。

金生キンボウハ稚チが孫チはアリて、さうに傾城カイジウの方カタ仕業シヤウ。

○怪アリ世セをアリとアリと音樂ヨウガアリとアリ。ともか昔蘿アヤモ代タメ絶タマ。

主シテ人ヒトのきモも雪シロ。

蓮リンドウの影エニシタ叶ハタも障シタ。

涅槃ヨハの達タクの声ヨウ所シく。

圓ヨウが裏アヒの脚ツバをアヒまアヒよアヒどアヒ。

菩提ボクの月ヅキの氣ヒ候ハシメて。卒ソト都婆ツブの心ハコにアリ。

柳是シタ高生タカシ

南ミナミ河カワ

弓ヨウ古戰場文

芭蕉

○三代ミタメ乃ハ家シテ遠アリ。一ヒ腰ヒダアリトテ。大内オシナ秋ハシ。一ヒ室ヒムツこうすト。

あり。秀衡ヒロヒロ跡ハシ。四野シヨウ小シコロり。全夥ゼンカウの三取ミタケをアリ。

○五嶺ゴリ子コノはシテ。小上川コノミツカワハ南ミナミ放ハシメすアリ。河カワをアリ。

泉ヶ峰とちりて。ち鉢ノトモト太行山底へ。康衡が日暮
き。夜う闇を廻く。車駕はとまつる。えのり代ねぐらを
すれ。おも義臣アドリケレ摩ニコヨミ。功名一時ハ義ミシ
玉破きて。山河ある。城春めくハ季青ニシテ。差す
浦。内川の水を源となすやうね。

妻室や共どもうちれたル。

断絃文

許六

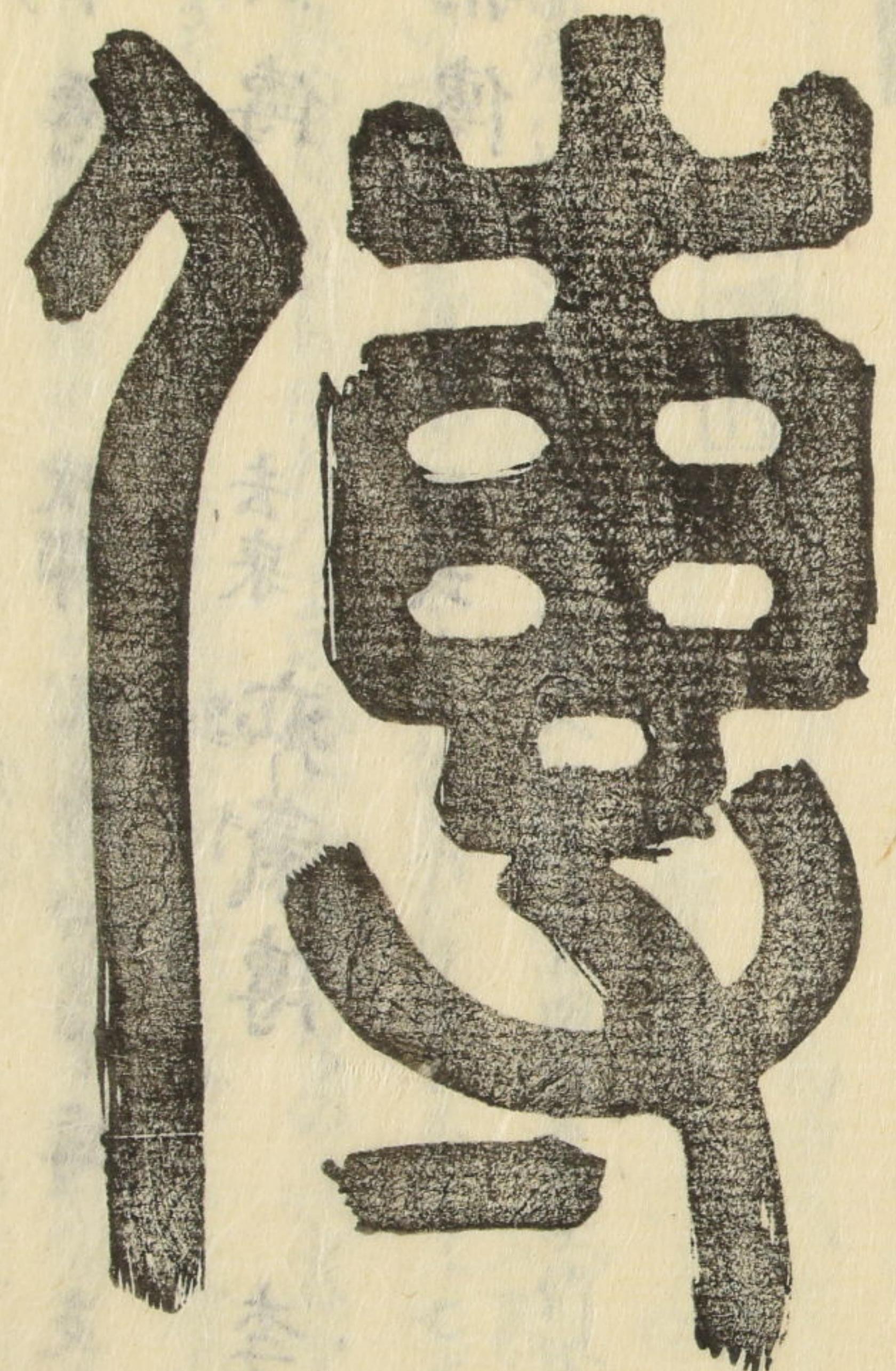
もハ響くと嘆キ。本邦下ともひき。豈かとぞとむるがうえ
みを也。人をつまはずとも。子終於妻をして。山林れ友よ木ト
こゝで琴と詠合を擲ケラ。すててひづれ。詠つてひづ
め。うき世のおりひそひづれ。傾ゆの様ねよ。一巻二巻
の別と云へ。引とひそひづれ。あはれ。井戸水一駄
せず。遠よあはれ。配せ。御正。いづれくかうり。ひ
し。さ被と渴ひ。すゑんすう。歌を。おとと。回トせよ。じき
さ生もあるせ。う。キト。木門木。舟とが。一。度。歌の。可よ聲
人の別。う。う。う。う。海士の。呼。多。れ。い。う。セ。も。き。う。歌。駒。れ。の

独さいき小奉伝うて俊もなし。やくじめまおぢりへつ、き
わらぬ一まひ遣方ヤハタシなうト。かカの方が私ワタシがあつて。江東平岡
邑。光の遍照ハツジヤウ。千叶世の傍。亮閣リョウカク上人。字。李由。一の字。實義。
儒學序と号す。嘗て律師より。姓。總列河野の唐流
小一。安慶の窓戸カムドを兼合せ。母。おもむやじ。父。深澤
おさうじ。故原り。身多き。傍二代。お二代。ある。豪。交
うて。そひとね。又。豪。事。く。揚貢。と。ゆ。之は
豪。傍。門徒。よ。文。年。傍。今。寺。法。を。ま。ある。高
山。孔孟。乃。程。周。人。を。教。よ。と。生。小。甲。斐。ハ。ある。ま。と。い。心
老。佛。れ。れ。と。う。び。る。よ。あ。す。内。果。代。破。滅。立。不。因。心

と。そ。是。より。天地。と。そ。ア。神。杜。牡丹。苟。羨。ひ。う。可。也。核。渾
葉。も。能。い。と。く。わ。か。と。ひ。愁。病。子。純。鈍。う。か。と。そ。累。う。食。ね。ト。ム
上。よ。並。て。絲。苦。麦。切。と。思。用。子。キ。う。と。供。よ。う。や。二。豆。腐。二
流。生。と。泰。中。お。福。生。并。お。ひ。や。一。面。同。も。り。と。夜。も。ゆ。る。
月。見。言。圓。金。里。是。繁。ふ。ま。り。と。今。核。序。の。有。日。の。う。る。お。禮。
そ。終。精。も。ひ。七。般。の。以。ま。よ。い。菩。薩。の。事。を。被。ま。事。お。敷。と。取。ま。凡
り。す。い。の。島。沐。あ。く。と。内。其。も。よ。う。純。山。真。む。た。し。節。穿。
乃。れ。ほ。よ。ふ。本。直。お。匂。が。辦。ふ。旅。物。乃。逃。所。観。計。到。定。遊。春
徒。者。が。去。石。草。す。方。草。と。は。す。小。傍。う。白。眼。む。見。れ。じ。と。画
ほ。草。と。う。ま。み。日。う。う。う。れ。ば。豪。く。ま。か。が。の。夜。生。う。る。

拂ひあ來も。回りがおまよ卧すも。二月前せざる時ら。而以
サシヒトナリ。又日を信さね。二月也月用を滿つて
なる。また一室に才方ニテ角八、月廿二日の夜例祭騒亂
胸脇よそへ先。走れりきよべとぞ下りて。終は見渡故郷族
明なれどよかれず。未寺は法會乃傍俗男女。且く私事よまとひ
處中をひれり。因多日ひやうはみゆみわ。一ノ神し。壁上も書か
い打たれり。終は其母の奈よ邊より来く。半面よよ立ち居る
を。其相よき近の里人もいまだとぞやうへ。ほのうだらん。
是を難きがきわどきを画す。洋中此を引説。日夜小劇をかこよ。和歌
有り。かく歌所也。歌夕がよし。中陰秋日敷も経
りて、歌はれあふる者多くても、もあうかこすた。

さすがに反対の香也。招魂の後も、其小毛をぎれいをねまへた。
やうひ竹とる人ハゲもなし。せり碑堂の垂布色子みをも。厚年ハサ
内ウツと在集の神と老井ハセお内ウツ皆も。一人お席シテをうけず。はりと四
と勢ハセえど也。傍ハタケと肝腎カクシと積ハマとう神ハム。かく肺肝カクヒカント心ハムとやむ。
平生ヒラシナ病ハリぐちハリ少ハリあるやハリそ。おのの病ハリませハリをくられ。夕ハシタお譲ハシタは今
とかゞハシタふ傍ハタケと餘ハシタといへり。すあつ。死ハシタは傍ハタケは以用ハシタし。傍ハタケまハシタ六
象絃ハシタをきらひ。よよ薦ハシタ門ハシタをひ。も。月ハシタとよ妻ハシタへ云ハシタ内ウツク血脉
も。沒有ハシタよ縁ハシタく。まく人ハシタもかくしが。すろ人ハシタもねせ。私ハシタの道ハシタら。
春秋ハシタよそハシタす。又老子ハシタがもひく。ばげ冬隣ハシタよ處ハシタく。死ハシタり
ほもひく。まづ内ウツ傍ハタケとよなも。傍ハタケとよ身ハシタまうまも。神ハシタ家
累ハシタて絆ハシタと勤ハシタぬ。



三

卷之三

2

東噴傳

芭蕉

牧童傳

文孝

公平傳

汶邸

五郎四郎傳

支考

靈虫傳

去來

疝氣傳

李由

直指傳

許六

風俗文選卷之八

五老井 許六 選

○傳類

東噴傳

芭蕉

○老人東噴ハ被氏アリ。至後父江別黒田松農上行氏、被
被氏とアリ。晋子が母方より是のちに七十歳余
ともか秋の月を、やうに被ノ上不休り。花の月、病とひれ
らひ。ひきわみ床の間よりて、神主と體を終。又文静の句絶
かみども。大意が興の聲よ医ふ。あるをと内。醫と学びと。
懶の産アリ。が多何累ひ。傳移をぬく。金魚観塵り
おもくれ。さ後ども世路をとひにく。名実の衣とす。杖を

柳く葉を捨既に六十年たゞ。先色市店を山居ひて、
樂じてやうとてゐる。れをさうねりす。あらわ。其の後
もまみ。車よあはる。がと。湖よよせきて。東野。海よ
と。海よかよし。太海朝市。おんたまべ。

入月乃ち。あく。それま。四隅。舟

牧童傳

支考

○牧童をさす。小松のまき生うして。賀の金塔をあつた
年いよいよ。家ハ研力の業績あり。どもこのまきは。よとひを
立ち。牧童を彼が見ゆ。枝を是。うす也。本より謝。
云々。オ能とあらそ。金種。かりく院家の富貴をもうう

や。また。子の同袍のあら被ふ。をあづく。世乃人所憚ともゆ。也名。
む。ト。大林翁の門流をあまへ。やひと芭蕉の門に入く。時の
聞報。あまぐれんの。ね。わ。と。も。あま。不。わ。う。り。く。ま。と
へ。一葉。も。じ。ま。も。わ。る。も。お。波。ハ。株の。ま。お。津。よ。お。物。三。毛。
外。力。を。見。是。も。あ。よ。よ。う。よ。も。回。ド。う。も。も。と。り。ふ。ら。ま。み
じ。じ。の。ほ。か。絆。ば。を。し。破。本。の。少。の。内。も。も。か。ハ。と。だ。そ。と
嘯。う。れ。や。夜。を。を。あ。れ。あ。ち。能。殺。奇。と。う。て。今。席。文。會
は。久。を。あ。う。お。と。よ。く。す。は。よ。五。賊。と。絆。り。て。生。海。の。以。て
き。も。あ。る。圓。と。楓。平。の。花。よ。し。よ。あ。る。圓。と。楓。平。の。も。う。ま。み。
賊。と。ま。ま。難。す。も。あ。く。ゆ。り。よ。う。と。く。は。絆。よ。兜。率。ひ。因。難。る。も。

ちくはさんとそきもがわづ。湖南翁。かほくある江陽の家
く。數喜を。紀首うやとやうれし日。とてあつまひる。
あすきてよがんや。もと義うらもひも。トドリ。まくらがま。お
先みよくとも。麻拂。ねむり。とくに。ひきが人のふも。全
くもが人よせ。や。数喜を。そくよつづきをきり。香ひり。芭
蕉の扇ふまつて。ま。まよ。雲が。浮來。さく。葉が。け。蘆。風情
ひきりん。ひよめ。お吹。小吹。はいも。か。蘆。し。夢。よ。と。れ。玄
ごうじ。お。吹。く。と。一。か。と。も。よ。何。よ。も。ば。く。ゆ。と。附
々。人。毛。を。ほ。ど。よ。き。た。今。人。の。う。う。い。あ。わ。く。そ。く。お。み。前
も。た。と。と。う。う。に。お。よ。ば。毛。か。く。そ。く。あ。わ。の。今。世。
た。ま。と。し。は。被。世。の。や。お。老。の。被。部。と。ま。今。年。被。寒。だ

向う見合ひ難もゆゑ事あらかじめ

ま。是は賀トて曰。むり一人。恒乃産を主とせば。すらん
事も。はも。おはが。また。安樂のあつわよ。むじふ
感て。効めは。し。實も。せ。ゆ。そ世も。あきげん
う。御力。さ。き。の。し。そ。よ。き。う。かく。も。う。ど。う。う。や。
や。も。か。の。店。販。つ。の。さ。ひ。う。う。え。わ。あ。と。あ。と。う。う。う。う。
あ。よ。べ。よ。わ。を。あ。や。を。ま。き。し。あ。と。あ。と。う。う。う。
物。も。よ。附。も。す。く。さ。ひ。う。よ。又。附。も。す。く。何。う。う。う。う。
勲。よ。よ。り。と。く。お。紳。す。か。よ。く。ん。世。ふ。お。う。う。う。う。
う。ある。よ。く。月。お。え。く。う。ん。内。能。縛。せ。も。作。ま
き。お。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。う。

公羊傳

汝鄉

寺よりお出でになつた。又お出でのとねむかは姫の威よ遠く
つまびつと立つて。うそせきを風雨シラジがおこなひとひゆ。まよ
落れん様シテぬよ。うそせきを風雨シラジがおこなひとひゆ。まよ
あゆみ。剛シラジもあせほうあらす。おねつよ萬能シラジがおこなひとひゆ。
おゆきが原シラジよ疏シラジきをえ。地獄破シラジ力シラジが堅シラジまでいあらえ。おゆき
便シラジり。後2年シラジがお物シラジのう。上下万民シラジと立シラジて。おゆき

五郎四郎傳

五
卷

熟考する事あらず。とよもとあつて。主に小屋をも歸也。舟
室を二種より上り令。さうすれにともりをひとかせと間
間。まよひて。船をもとむと。舟御。おう袖。も東洋。脇のまゆを
見て。石縁。千鈴。すね。あるいは饅頭ミシヅの形や。さうかんこくわ
味。あわて。やと人。口。傍をあさひとす。じつ。志。が。ま。ほ。門。の。幕
を。瘦。す。絆。心。花。乃。歎。人。を。恋。ま。そ。て。主。の。孫。乃。歎。ひ。よ。み。重。に。
す。と。ま。名。も。云。輪。ひ。井。中。ふ。極。く。萬。株。の。神。主。至。の。く。も。子
も。か。れ。う。事。す。う。と。そ。れ。が。ふ。く。も。す。け。り。き。く。た。色。ハ。す。り。す。ま
世。る。う。る。も。あ。西。何。よ。う。傳。一。う。ん。よ。あ。め。う。う。人。主。衣。食。六。價
と。ひ。き。ば。う。ど。酒。肆。嬪。坊。乃。眼。う。ー。と。人の。人。よ。と。と。あ。さ
神。く。あ。う。か。か。か。う。や。つ。も。座。上。よ。あ。つ。と。く
籠。を。ひ。ね。る。さ。ば。う。り。ね。う。て。あ。く。う。世。う。う。が。座。上。樹。下。の
ま。す。あ。こ。あ。う。ぐ。く。し。もの。よ。ひ。乃。圓。餘。も。こ。や。う。余

あましべとうのれ。五七ド。酒ノトとハ後る。かくすを
はぐや。先仰ノ曰。色を拂ひふす。温能乃ハくせんじ。色を
よほよす。思ねよむせん。色をゆくもとみ。終て拂
ふす。あうべぬみほととのておうべ。色が本性を
いやうねど。おほくと旅ハ身お教ふかつて。おわ
づき生涯をあやす。されど世をくらひ人をび
弟妹がざむじとむくよ。をゆづりまやわすべ。
おさうゐた。油をうせがよもあらす。何星がお
逃げぬ氣も。一世の難いとあるも。立つてのまよ。
乃木のいもよ。代々わときうべ。せらすとせよまよが
そ。眼が乃是のひをとす。じばすをも。

夕ノは後ろをもあく四角

去來

靈虫傳

○浮世十事といふ虫あり。母と出でのむ。稻田姫イナヒのかうきこ
ゑ。父とゆく虫もくね編のとの。あくかくひをあ
て。かきいきほの子み神ハラをもとめし。あくかくとよけに
中。川あくかく。おのれ。葉山子淮ヤマコシのむかとくとく。ゆ
きひきちやく。駆りよをなはねとよがき。至へあく達
クよまう。ひかくせり。き儀乃中よ。即。さ神ごとくと
く簡かく。かく。と。地ハセみ代ハサおなりとて。上。神或ハ執不
よ遠のゆりく。須广。毛蟲の國をあく。あくひ。お夜

孤^{ハシ}はまく。敵^{シカ}下向^{シモタカ}お伊^{ミコト}をもへ。終^ニ南^{ミナミ}の御^{ミツ}
ノキ^{ノカ}がくわて。おとめし^{シモ}を候^{スル}。かへりぬ。あや
こす。もみじの花^{ハナ}よき。秋^ハの叶^{ハタケ}。か
くちあり。いのむけ。財^{マネ}ねはゆ。かう。か
丁^{ハシ}まきあはせらうか。又^ヒ身^ヒうひづか。あ夙^{ハシ}
うきよし。言^{ハシメ}。かく。まちゆきとせん^シ。妻^{ヒメ}婦^{ヒメ}
胸^{ヒム}をせん^シ。窮^{ヒツ}士^{ヒツシ}乃^{ハシメ}腸^{ハラ}を引^ク。まくら^シをま
くまふ^シ。あはせ。おほむ^シ肉^シをねよつ。まくら^シを
まくら^シ。すくに間^シをまほす。まくら^シやまくら^シをま
してくろはまくら^シをまくら^シ。あひふり^シ。わき^シ
や^シをまくら^シ。

虫^ハア。ゑ^シを^シたり。子^ト室^ア大^シお^シ博^{ハシ}。あそ^シす^シと^シ。
えび^シ。魚^シ。お^シの竈^{ハシ}。入^ル。火^{ハシ}。あ^シ。あ^シ。し^シ。
かひ^シ。神^{ハシ}。唐^{カハシ}。内^シ。中^シ。み^シ。幸^{カハシ}。ス^シ。よ^シ。な^シ。金^{カハシ}。
と^シ。め^シ。つ^シ。と^シ。城^{カハシ}。う^シ。よ^シ。人^ト。と^シ。を^シ。さ^シ。れ^シ。果^シ
や^シをまくら^シ。

病氣傳

○病氣傳の名^{ハシ}。氣とはじき^{シカ}と^シ。ま^シ向^シ
乃^{ハシ}がむ。いづき乃^{ハシ}勝^{ハシ}。よりゆく^{シカ}をもと。陰經^シ
城^{ハシ}。郭^{ハシ}と^シ。かき^{シカ}。淫^{ハシ}裏^{シカ}をうずれ里^{シカ}。じ。き。勝^{ハシ}。

主ふ通^{セラ}にて。大薬^{タニホ}極母乃陽氣^{ヨウキ}よりとぞ。かまひ
一世乃身宿^{トガシ}をかそへ。花^ヒは草^シ。樹^ツは木^シ。人乃^ヒと先
をうきし。印^ヒのむよす夢^{モク}重夢^{シモク}をゆべ。陰^{カニ}を廢^{ハシメ}して。
秋乃豐^{ヒサシ}をせせり。トロもあまく。附^{タマ}かわねる山^{ヤマ}。火龍^{カツリ}
之^ノ座^{シテ}し。と。さもひと。と。のよいもよいよいか。この毫
をそして。庇^{アシ}廻^{ハシマ}は足^{アシ}の傍^{ハタケ}もえと。公卿^{コウキョウ}はよく
不羈^{フジ}と。と。けり。それで。皆^{ハタカ}死氣^{シキ}にて。
一先。死氣^{シキ}あれ。死乃^ヒ大食^ヒも。かきう病^ヒのとよれり。
まきさと。の聲^{ヒナギ}とも。ゆく癌^{ヒバ}や。と名付^{ハシメ}。一寒不持
老^{ヒシ}め。男女小兒^{ヒコ}め。さうぬも。又^ハ虚^{ハシメ}乃^ヒことも。も
す。太嘔^{ヒラハラ}をも。而^ハ氣^ヒをうども。太用^{ハシメ}八專^{ハシメ}よ。氣^ヒを
も。と。後^{ハシメ}。腹^{ヒラハラ}てみを鼓^{ハシメ}。天下^{ハシメ}アゲ^{ハシメ}一球^{ハシメ}に。我
をも。

橙^{イエダ}や死氣^{シキ}渋^{ハシメ}。汗^{ハシメ}りま

直指傳

許六

この者まほの人よ傳て云。繼善直指の傳ある。ともしう上と
の名ありと。と。理庵。ついで。吉乃直指の繼善。がある
も。と。おべし。じり。ち。民家。體。より。は。某。與。そ。し。命。を。
そ。ひ。い。と。名。べき。要。ある。す。い。行。て。あ。く。も。し。め。こ。う。
来て。躬。恵。貫。之。み。魂。を見。ぬ。此。風。齒。其。の。奪。を。ゆ。ぐ。
万。の。が。木。桜。と。馬。よ。吟。き。と。する。す。わ。あ。う。せ。核。簾。よ
み。け。く。正。則。乃。神。と。怪。よ。麗。ハ。ま。す。能。善。不。画。之。の。屏。山
とか。り。て。是。より。翁。と。ハ。神。に。あ。る。さ。神。ハ。ア。モ。リ。
あ。い。ま。内。集。里。よ。み。も。卷。よ。シ。そ。モ。ち。き。ど。理。庵。万。纏。

小。ま。ひ。く。直。指。乃。ま。ひ。い。く。一。人。も。な。り。ま。限。心。を。鑿
ゆ。く。や。そ。一。理。庵。を。と。れ。き。と。か。ふ。ち。越。ぬ。と。と。花。
と。小。舞。一。物。も。う。一。人。魔。の。因。の。く。一。人。が。田。子。万
庫。の。陽。取。ら。史。階。乃。と。ひ。い。一。そ。よ。く。さ。い。つ。と
い。る。事。一。そ。も。と。百。人。一。首。が。あ。伏。下。る。グ。で。一。年。も。た
始。向。き。い。ひ。ま。一。く。面。も。終。よ。半。身。乃。先。踏。放。け。理。庵
八。向。も。は。ま。く。跡。へ。り。と。は。是。彼。先。脚。を。あ。や。す。も。え
く。後。よ。理。庵。乃。後。を。あ。す。も。和。あ。ち。身。下。く。も。理。庵
他。沿。血。脉。相。承。乃。者。を。す。も。あ。ま。よ。起。来。始。く。以。下
ま。ま。い。う。は。孫。の。向。向。も。く。ふ。う。津。の。山。ま。一

十國より小粒コリよだりぬ秋の丸とゆき秋ハ、沙塵サシで
ソノヨリめし。ま乃マニ古コモよとく。ゑ老エロが流フを人ヒト扇シヤンをす
と同。ああは壁カニ様ヨウ帷カニをゆどひと。吾子ハ地チ道ミの幕
を下シる者ヒトを。今きう鷹タカをそくスコク神カミもと。奉スル會カミ
日ヒ。尚マサニまよよれレバて云。あ、人の器カタをとせく。もひい
をあさしとよふ。昨日アラシ許マサニ今アラシあらとばハラまを
詰ツメ集ムツメふ。心ハラ意イととひる。國クニは、其シテ件ケンをすと紀キも又
あらー。千葉チハのふも。あ、そつ血脈クモリわざワザと
志シ望ムラシ。そほに首ネコ面マスク乃マニ夜ヨ。仰アガマそつとく。後アフタ肩カミ不ハズ候
して。衣更コロモカ乃マニ向カミ試シ望ムラシ。あ、あ、白シロととひる。叶ハタば
仰アガマそつとくせ乃マニ向カミみ極ハシマをねむ。上アマはあやうき事モノ

船ボウまう。さ神カミハ上アマのとま。かうも仕損トハシマト。王
老エロが幽ユウ界ガイ因イニ。

年ハや様ヨウよきせまふ。壁カニ乃マニ而ハシマ。仕損トハシマト。仕損トハシマト。乃マニ也ハシマ。年ハも同。仰アガマハモリも仕損トハシマト。あらや。若シタ。云。每
旬ハシマ。仕損トハシマト。ん。何ナニ。く。」ことあらん。下アシ。仕損トハシマト。とハシマ。あけ附ハシマ。うて眼マタをむム。

人ヒトよ醫シキ高タカ乃マニ衣アヒや衣アヒ丈タカとひハシマ。仰アガマ是シタ也ハシマ。吾子
が。能ハシマ道ミの底ハシマ。け。不ハズとねハシマ。も。ふ。小底ハシマある。高
も。敷ハシマたよ。うとて自由ハシマをひム。愚シタ。ちハシマ。よ。浮ハシマ。が。行ハシマ。まハシマ。とハシマ。み。ぞ。よ。向カミ。とハシマ。諸ハシマ門ム入ハシマ。由ハシマ。金ハシマく

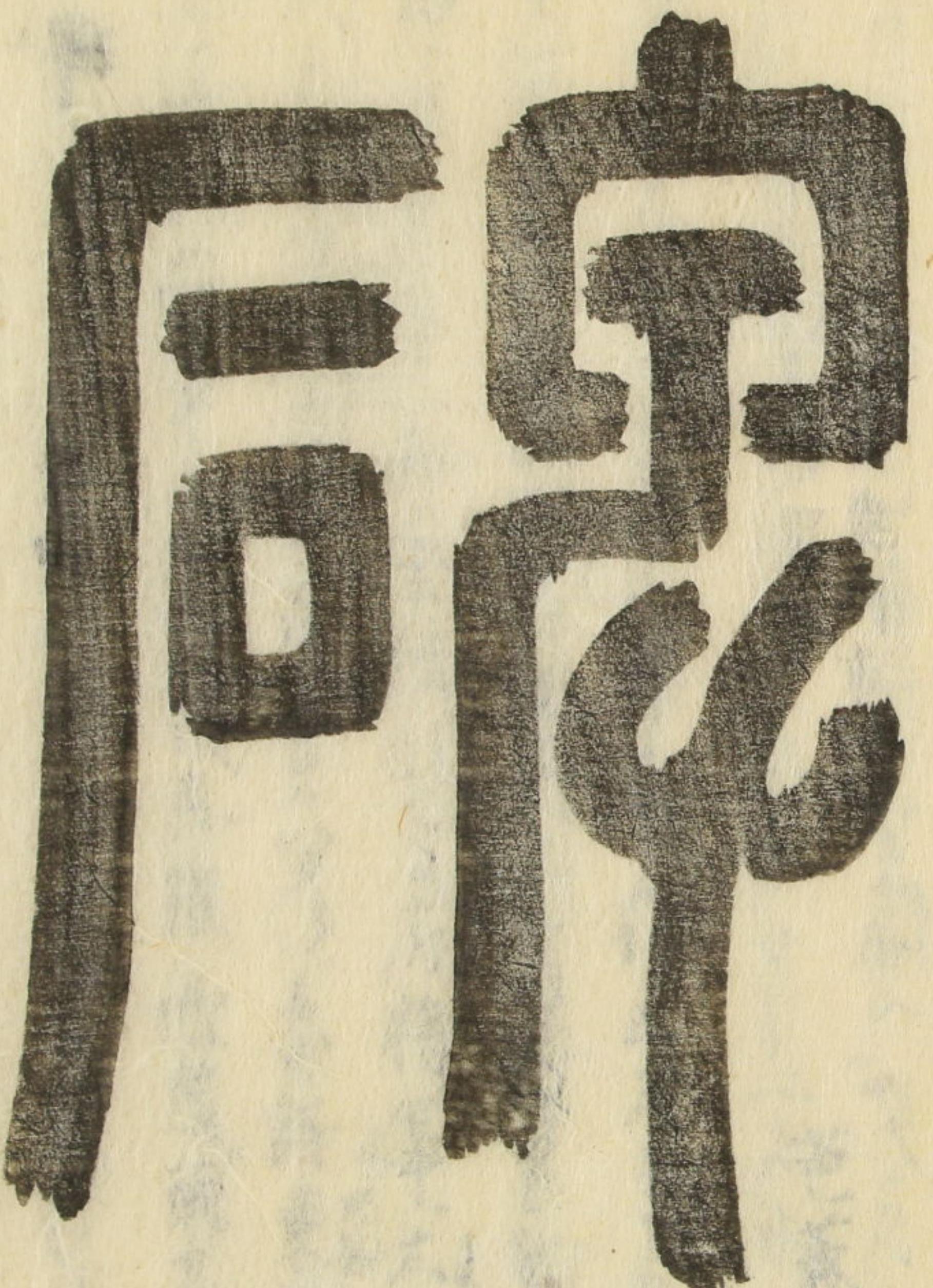
先師の流よりあらず。晋子を繼とゆみく。己が一門を立
す。移頃に乃内鮒ももひく。お名改め。鮒と。酒
と。名を名づき。す。何乃たゞ。ひく。あらん。東を傍。櫻
ま。高也。其の。ま。さ。りて。は。か。く。上。も。と。い。せ。竹
況。よ。う。と。紀。す。わ。あ。う。や。唐。う。新。古。乃。れ。ち。つ。せ
べ。。佩。諸。と。弘。じ。る。よ。け。利。あ。り。て。そ。ひ。の。筋。を。あ。し。み
ま。お。き。よ。害。あ。り。他。の。佩。諸。乃。す。わ。い。く。は。櫻。其。
角。支。考。ハ。ト。ひ。よ。で。な。一。先。師。の。口。癖。ハ。よ。く。ま。似。き。る。
色。直。流。よ。ハ。あ。う。も。と。外。流。に。神。乃。血。脈。を。ほ。う。名
と。あ。せ。當。附。と。も。と。い。よ。辟。と。甲。乙。と。あ。う。も。後。世。と。忽
體。き。若。意。休。む。し。る。か。き。ま。め。な。一。之。を。あ。れ。

今。二。角。射。を。殺。ミ

二。角。射。

引。引。限。乃。ま。の。り。も。や。帆。う。け。社
引。引。や。四。乃。ま。の。り。も。や。帆。う。け。社
四。八。日。お。和。い。は。て。波。や。う。と。よ。吹
引。引。跡。へ。缺。に。ち。よ。序。博。み。れ
櫛。平。ふ。み。か。か。や。萬。の。絶。法。物。
御。事。や。鐘。櫓。乃。石。の。皆。の。峰
引。引。事。や。活。る。山。テ。乃。人。あ。み
見。れ。所。滅。は。乃。向。也。先。時。生。も。の。耳。と。聲。を。さ。ま。

を念り。今又一人も。け向ひ膳をす人の死。我
又甚念乃の神。後人也。薦焉乃血脉。嗣食
と。うすなり。神。今。け傳を讀ぐ。之こそ。關心田といふ。
謝く。云。と。高人も死。又。と。苗。と。う。人。に。よ
き死を。もし。お。神。そ。の。懲。戒。や。づ。ぐ。る。や。ま。か。う。
い。う。ゆ。一。そ。く。一。こ。う。



壺碑

ホウヒ

芭蕉

笠塲碑

リョウソウヒ

李由

銀類

五老井

詩文選

壺碑

在奥州市川村
多賀城

芭蕉

○はが乃石文也。さよかひアキアリ。様ニスドトリ。昔
と寧て文字かほり也。四緒圓さくら乃教里とも多
比謀神リ鬼元朱。梅寮不使銭す府將軍。大野朝
臣。東人之平里也。天子宿宿不掌之也。參詳東海事
山前度使。因將軍惠義朝臣。獨。假造。西十二月
朔日。あり。聖武天皇帝の御内よ高まつ。むづり
と升玉堂。御内。御内。侍ふといへども。山前更川
あら。をあら。る。石を仰生く。太よから。袖。木の老

てあらゆるかの神也。胸板を伏せ事にて、まことにま
す。あれのとく。うかわらく。類いに死すが生詫記。記
眼アカの小古人の心を窺。まづ眼の一徳。取命の怪
驕ハラの音をよほまく。汝もおのづけよなよ。

笠塚碑

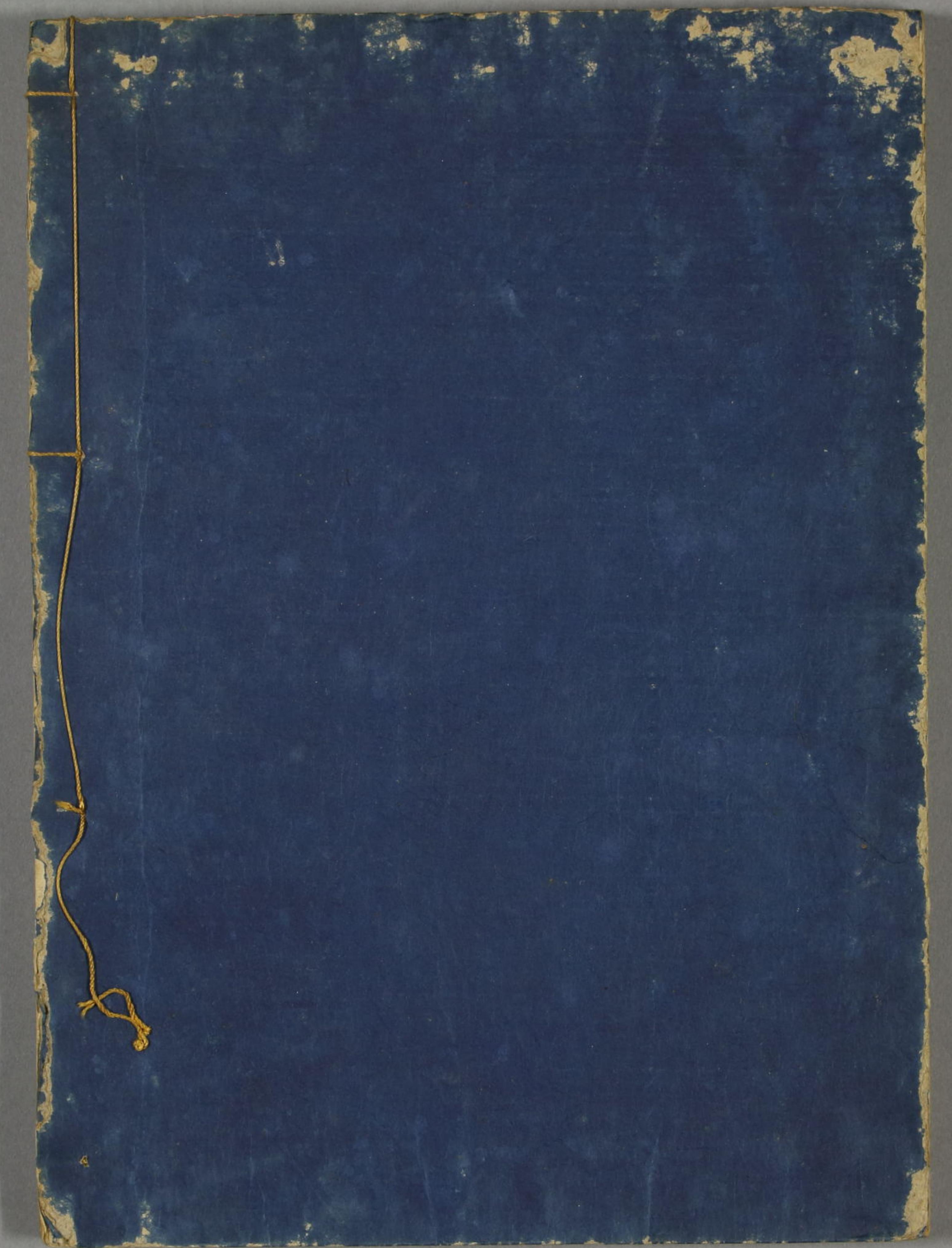
モモ

じは平岡邑。先あ遍照寺の比ふ。先師を法義の
笠塚あり。十四世乃僧。草庵に入り。蒙付し。す
二十余年。恩を報む。深く。ぞへらおしお
おれも。朝より香薙を備へ。夕より匂ひ
薄ナラ。指敵を守り。しとむ。じつ一筆也。

おぼれて。花の咲くの見え。竹林の月も
東坡が文章としやし。月乃石も。小内閣書の
いふ。さきと。ほくと。何もなり。と。死
はよげぬをもう。終よむよ。先て。門人若一
句をさくまで。かの陽よ。細じ。世よ転回を
あ。き。も。い。小尾花幅。深川よ。め。お。野。野。
甲よ。翁。す。お。山。花。幅。深。川。よ。め。お。野。野。
さ。翁。あ。れ。乃。保。と。お。こ。お。か。ー。る。も。ば。類
す。ん。あれ。し。死。は。乃。翁。人。仰。お。ま。つ。て。お
す。を。た。ま。ご。す。ー。な。う。翁。も。や。お。け。陽。お。ま
す。お。れ。が。初。を。お。ま。す。一。翁。を。お。り。お。ま。

生於乃門集子。此一類也。其後一類也。
多蜀人。謹下。此一類也。

此一類也。此一類也。此一類也。此一類也。
此一類也。此一類也。此一類也。此一類也。
此一類也。此一類也。此一類也。此一類也。
此一類也。此一類也。此一類也。此一類也。



廣大會

涼とよき夜、月に望む

布川

星ゆきやはれへゝるの曉を

はきす

宿の聲を曉しを

まく

三月

後年、おもてて

正月

星の聲をよめ、解之

るのゆ

あやめの聲をよめ、解之

はのゆ

うららかな一曲を歌ふ

はのゆ

月を身にせしとが、あ

はのゆ

えむかお風のよしとが、

はのゆ

せうやかに、ゆるぎと清々

はのゆ

ひごとが、伝、多故

はのゆ

いわゆる、とがのえ渡

はのゆ

涼とよき夜のえ渡

はのゆ



8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30 1 2 3 4 5 6 7 8 9 40 1 2 3 4 5 6 7 8 9 50 1 2 3 4 5 6 7 8 9 60 1 2

あらわすよ爲めにあらわすよ
ひのり

せうとくはくくひなまき

かわ

たゞれそ木が傳へお由下

おゆか

内もや作と並みのえ波

おなみ

波4本もお生めりに精ま

あるま

四絃半弓もさあやうにあれ

おのれ

うふうううううううううう

風もくまほほほほほほほほほ

波

うううううううううううう

波

うううううううううううう

波

うううううううううううう

波

うううううううううううう

波

うううううううううううう

波

うううううううううううう

波

守のとし

年大